

# 博物館教育論

自由

開講年次：3年次前期

科目区分：講義

単位：2単位

講義時間：30時間

■**科目のねらい**：人々にとっての学びの意義と博物館の役割について理解する。

博物館教育の意義と理念について理解する。

博物館の利用とその学びの特性について理解する。

博物館教育の実際について理解する。

博物館と学校教育の関係について理解する。

■**到達目標**：博物館における教育活動の基盤となる理論や実践に関する知識と方法を習得し、博物館の教育機能に関する基礎的能力を養う。

①博物館の歴史を概観し、その教育的意義を理解する。

②テーマ別の博物館の利用実態を把握し、その教育機能の意義を理解する。

③博物館の教育機能・理論のあり方の実際についての知識・技術を身につける。

■**担当教員**：

細川 健裕

■**授業計画・内容**：

第1回	生涯学習の定義と博物館教育の意義について理解する	第7回	博物館の利用と学び(2) 博物館における学びの特性
第2回	日本の博物館教育史	第8回	博物館教育の実際(自然と生態の博物館)
第3回	博物館教育の意義と理念(1) コミュニケーションとしての博物館教育	第9回	博物館教育の実際(科学と技術の博物館)
第4回	博物館教育の意義と理念(2) 博物館教育の意義	第10回	博物館教育の実際(芸術の博物館)
第5回	博物館教育の意義と理念(3) 博物館教育の方針と評価	第11回	博物館教育の実際(歴史の博物館)
第6回	博物館の利用と学び(1) 博物館の利用実態と利用者の博物館体験	第12回	博物館教育の実際(民族の博物館)
		第13回	博物館教育活動の企画と実施(1)
		第14回	博物館教育活動の企画と実施(2)
		第15回	博物館教育と学校教育の関連

■**教科書**：使用しない

■**参考文献**：小笠原喜康ほか『博物館教育論』2012 ぎょうせい

George E. Hein『博物館で学ぶ』2010 同成社

ミハエル・パーモンティエ『ミュージアム・エデュケーション』2012 慶應義塾大学出版会

小笠原喜康『ハンズ・オン考—博物館教育認識論』2015 東京堂出版

■**成績評価基準と方法**：

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合(%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
出席状況	○	○		規定数の出席があること	40
講義内提出物など	○	◎	◎	各自の経験をもとに、関連事象を考察していること	30
課題	◎	○	◎	講義内容を理解し、教育普及の実践を想定した企画ができること	30

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：博物館概論、博物館資料論、博物館展示論、博物館資料保存論、生涯学習論

■**その他(学生へのメッセージ・履修上の留意点)**：各自の博物館体験を振り返り、博物館における学びについての意見を求めることがあります。講義に臨むに当たり、博物館教育について各々の考える理想と課題を整理しておきましょう。